

「中国と日本—これからの友好交流」に「私の夢」を託して

聖トマス大学教授 王智新

皆様のご支援とご指導のもと、中国の大学生を対象にした第2回「全中国選抜・中国日本語スピーチコンテスト」が2007年7月30日、都内丸の内にある日本経済新聞社ホールにて盛大に開催されました。

中国で日本語を勉強するモチベーションの高揚と、それを専攻する大学生に日本への理解を深める機会の提供を目的とする本コンテストは、昨年に続く二回目の開催であり、「2007中日文化・スポーツ交流年の認定事業」でもあります。日本経済新聞社、中国教育国際交流協会、日本華人教授会議が主催。JFEホールディングス、大和証券グループ本社、森ビル、日本航空、NECが協賛、協力して下さいました。

当日、500人を収容できる大会場には、立ち見が出るほどの盛況でした。開会に先立ち、主催者代表、日本経済新聞社の杉田社長が挨拶し、コンテストの意義が強調されました。続いて、来賓のご挨拶に、中国王毅大使（同大使が急きょ帰国したため、孫建明教育参事官が代理）、安倍昭恵首相夫人、JFEホールディング数士文夫社長、大和証券高橋昭夫常務執行委員、森ビル渡辺五郎特別顧問がそれぞれ激励の言葉を述べられた。王智新審査委員がコンテストの採点ルールと方法を説明したのち、全国8ブロックの予選を勝ち進んだ17人による本選が行われました。選手たちは中国全土約8000人の中から選ばれた人たちで、5時間続いた熱戦と厳正な選考の末、華東師範大学外国語学院日本語学部の郭侃亮さん（21）の優勝が決まりました。また、北京第二外国語大学の朴阿英さん（20）と西安交通大学の于森さんが準優勝を獲得しました。そして、JFE特別賞、大和特別賞、森ビル特別賞、日本航空特別賞、NEC特

別賞（各1名）と審査委員長賞（9名）が、参加者17人にそれぞれ手渡されました。

今度の共通テーマは「わたしの夢」「中国と日本—これからの友好交流」で、そのどちらかを選んでスピーチし、その内容に基づく質問に即答するという形で行われました。優勝した郭さんは日本に中華料理店を開き、料理を通じて日中交流の橋渡しをする夢を語りました。中華料理と日本料理の違いや特徴についての質問には流ちょうな日本語でユーモアたっぷりの演技を披露しました。

採点が行われる合間に、中国教育国際交流協会の林佐平副秘書長が全国8ブロックに分かれて行われた予選の状況を報告し、前年度の優勝者の紹介も行いました。表彰式に続いて、審査委員長（池端雪浦・東京外語大学長）による講評が行われました。今回のコンテストのテーマに関連して、「若者が夢を語る時には、時代的精神を反映して、もっと大きなスケールで大志を抱いて語るべきである、と同時に、その夢をいかにすれば実現できるという具体的なステップも必要であるが、残念ながらあまり触れられなかった」と指摘されました。さらに、外国語を勉強する目的に関連して、「自らの内面を太らせて、深みのある人間に成長してほしい」と選手たちを励ましました。語学が上達するにつれて、夢も膨らむことが求められるということだと思います。

経団連ホールで開催された懇親会の席上、日経の杉田社長からは、連続二回の大成功で、社会的な効果も上々であることから、当分の間、本スピーチコンテストは継続されるという力強いお言葉がありました。

中国からの参加者は、さっそく翌31日から